

令和5年度第2回木津川市介護保険事業計画等策定委員会 会議経過要旨

会議名	令和5年度第2回木津川市介護保険事業計画等策定委員会					
日時	令和5年8月28日(月) 午前10時～午前11時		場所	木津川市役所5階 全員協議会室		
出席者	委員 ■：出席 □：欠席	■安藤会長 ■光井委員 ■鶴田委員 □小石委員 ■木下委員 ■島本委員		■兎本副会長 ■岩本委員 ■井上委員 □内藤委員 ■大前委員 ■山川委員	■馬副会長 ■山本委員 ■石塚委員 ■村田委員 □泉委員 ■新井委員 ■金森委員	
事務局	山本健康福祉部長、平野健康福祉部次長、 竹村高齢介護課長、中西高齢介護課主幹、 林高齢者福祉係長、木村介護保険係長、 森川介護保険係担当係長、 岡田主任、中畠主任 株) サーベイリサーチセンター片山氏					
傍聴者	0名					
議題	(1) 第10次木津川市高齢者福祉計画・第9期木津川市介護保険事業計画の骨子案について					
会議結果要旨	1 開会 <b>開会宣言</b> 委員17名の出席により、会議が成立していることを確認した。 (成立確認後1名出席され、出席委員18名となった。)  2 会長あいさつ 安藤会長から開会のあいさつがあった。  3 議題 安藤会長が議長となり、議事を進行した。 ① 第10次木津川市高齢者福祉計画・第9期木津川市介護保険事業計画の骨子案について 事務局から資料1～資料3により説明した。  4 次回委員会の予定について 事務局から10月3日の開催予定の旨、報告した。 併せて、次々回は10月30日で調整している旨を報告した。					

	<p><b>5 閉会</b></p>
<p>会議経過要旨</p> <p>◎：会長 ○：委員 ⇒：事務局</p>	<p><b>1 開会</b> 会議結果要旨のとおり。</p> <p><b>2 会長あいさつ</b> 会議結果要旨のとおり。</p> <p><b>3 議題</b></p> <p><b>① 次期計画の骨子案について</b></p> <p>【資料1】 第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画骨子案      【資料2】 次期計画策定のポイント      【資料3】 次期計画体系図案</p> <p>【説明】 資料に基づき説明した。</p> <p>第1章 計画の策定にあたって</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画の策定の背景と趣旨</li> <li>2. 計画の位置づけ</li> <li>3. 計画の期間</li> <li>4. 計画の策定体制</li> <li>5. 第9期計画策定のポイント</li> <li>6. SDGs、持続可能な開発目標との関連</li> </ol> <p>第2章 高齢者等を取り巻く現状と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人口構造             <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の人口構造と年齢3区分人口の推移と推計</li> </ul> </li> <li>2. 世帯構造について。</li> <li>3. 高齢者等の状況について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定者数、認定者の状況と、認定率の推移等</li> <li>・国と府を比較した場合の認定率</li> </ul> </li> <li>4. 高齢者実態調査から見た現状と課題</li> <li>5. 前計画における取組みの評価</li> </ol> <p>次期計画の策定に際して、基本的な考え方としては、現行計画の施策をさらに推進・強化していくものとなる。計画の連続性・整合性を維持し、引き継いでいく。</p> <p>次期計画基本指針のポイントとしては、介護サービス基盤の計画的な整備、地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取り組み、またそれを支える介護人材確保及び現場の生産性向上等が挙げられている。優先順位を検討し、計画に盛り込んでいく。</p>

### 【主な質疑・応答、意見】

- ：計画の位置付けとして、「高齢者福祉計画」と「介護保険事業計画」が書かれている。地域共生社会の実現という観点からいようと、支えられる側だけではなく支える側にも高齢者がいて、就労など元気な高齢者の位置付けも重要となる。高齢者福祉計画をどう捉え、どのように考えているのか。
- 子育てを支えることで、高齢者の働く場を作っている地域もある。地域共生社会ということで支えられる側・支える側両輪で考えていかないと、持続可能な制度という点が困難になってくる。高齢者福祉という部分が少し薄いように感じる。
- ⇒：地域共生社会の実現としては、基本目標1「介護予防と健康づくりの総合的な推進」の「生きがいづくりと社会参加の促進」という部分に集約する形になってくる。
- シルバー人材センターの支援やボランティア活動の促進等、今後具体的な施策の部分で、説明を表記していきたい。
- ：今後の暮らし方について、家族に見守られながら自宅での生活を送りたい方がいる中で、国も定期巡回型や看護小規模多機能型居宅介護を進めているが、市には定期巡回等の事業所がないのでイメージがしにくい。イメージづくりができる制度があれば普及できると思うので、実際にサービスをされている方の勉強会が出来ればいいと思う。
- ⇒：定期巡回や看護小規模多機能型居宅介護の勉強会について、研修会という形で機会ができるよう検討したい。
- ：介護予防についての意識は、男性の方が女性に比べて低い。今後、どのように取り組んでいくのか。
- ⇒：男性の介護予防の認識の低さについて、普及活動などさらなる工夫が必要で、課題と認識している。男性に向け、どのような普及ができるか検討を進めたい。
- ：ヤングケアラーについて。実態調査にもあったが、子どもたちがきちんと教育を受け生活ができるように、ヤングケアラーや家族への支援等を含めて計画願う。
- ⇒：ヤングケアラーは、介護だけではなくダブルケア等様々な課題を抱えていることもあるため、子ども施策等も含め、連携しながら取り組むことを計画にも記載している。重層的支援の部分について、引き続き強化し推進していきたい。また、相談窓口についても計画に記載したい。

	<p>○：災害対策について。事業所単体での連絡体制がどこまで確保できるか、もう少し事業者の方にもわかるように行政側もサポートすることが必要と考える。また、災害が激甚化している中で、各企業でBCPを策定されているが、事業所単体で非常災害時にどれだけ事業継続するかの判断が難しく、事業所以外の各種団体のサポート支援が必要になってくると思うので、その辺りも含めてBCPなどに書き込めばどうかと考えるが、その点について確認したい。</p> <p>⇒：現在、BCP作成は年度末までに各事業所において取り組まれていて、作成が完了している事業所もあれば、まだ作成中の事業所もある状況である。また、国や府でもBCPの研修は実施されているが、どの程度の作りこみがされているかという点は把握していない。今年度末までの期限があるため、どういったサポートができるのか、記載内容の充実に向けて確認する。</p> <p>○：地域包括支援センターの業務負担軽減とその確保は非常に素晴らしいことだと思うが、高齢化率や後期高齢の人数が高まる中で、負担をどのように軽減したらしいのか真剣に考えて計画に反映しないといけないと思う。ICTを市としてどのように活用していくのかも計画に入れて欲しいと思うが、困難か。</p> <p>地域包括支援センターから話があり、ICT活用ということで、見守りシステムのモニターを行った。生産性向上や負担軽減という点で、広めてはいかがか。</p> <p>⇒：地域包括支援センターは、業務量もかなり増えているため、業務内容の見直しやデジタル化を進める点について、検討したい。見守りシステムについては、どの程度の負担軽減になるのか、コスト、メンテナンス等についても総合的に考えないといけない。市と地域包括支援センターと一緒に検討を進める必要がある。</p>
	<p><b>4 次回委員会の予定について</b> 会議結果要旨のとおり。</p> <p><b>5 閉会</b></p>
	以上
その他特記事項	なし